

市交際費の支出状況

令和元年5月分

支出種別	区分	件数	金額(円)
弔 慰	今月分 累 計	0 0	0 0
見 舞 い	今月分 累 計	0 0	0 0
御 祝	今月分 累 計	4 9	20,800 35,600
賛 助	今月分 累 計	0 0	0 0
激励金	今月分 累 計	0 0	0 0
接 遇	今月分 累 計	2 4	1,680 19,384
会 費	今月分 累 計	3 3	9,000 9,000
そ の 他	今月分 累 計	0 2	0 7,200
合 計	今月分 累 計	9 18	31,480 71,184

※くわしくは市のホームページに掲載しています

問い合わせ 総務課 秘書係
☎75-2115

市長コラム

「大事にしたい故郷だから」
日本では、農村における集落のことを「部落」と呼んできました。私も、この慣れ親しんだ「部落」という言葉をずっと使っていました。運動会では、部落対抗リレーが盛大に行われていましたし、部落懇談会なども行われていました。昔から、なんの違和感もなく使っていた「部落」という言葉です。その一方で、差別の対象となってきた集落のことを、被差別部落と呼び、その略称としても「部落」という用語が使われています。
私は、同和問題に出会うまで、「部落」にそうしたふたつの意味があるとは、知らずにいました。人は、誰でも自分の意思で生まれを選ぶことはできません。

tomon i kiru

ん。親も、家庭も、生まれる場所も選べません。個人の努力では変えられないものをいっばい持って、この世に生まれて来るのです。当たり前のことですが、この日本社会には、そんな「当たり前」のことを理由にした差別があるのです。
時折、「そこに住んでいるから差別される」とか「そこから出て行けばいいのに」などと言われることがあります。では、挨拶代わりに「どこ出身ですか？」と尋ねることがありますが、その時にはどう答えれば良いのでしょうか。
どこに住んでいても差別されない、出身を明かしても何ら波風が立たない、どこに生まれようと、胸を張って自分の故郷を語れる社会にすることが目標であり、私の願いです。

社会教育指導員 野中久美子

Message for citizen



市長コラム



水無月の6月から7月へ。昨年は大雨もありました。これから本格的な雨のシーズンです。気象や河川の情報に気を付けてお過ごし頂きたいと思います。早い話、「気をつけんばいいかんですよ！」なのです。
今年は春先に新しい防災マップ冊子を全戸配布しました。ご覧になりましたか。ぜひご家族で一緒に見てほしいのです。前半に防災に必要な情報ののせ、皆さんの防災力向上の一助になるよう工夫しています。後半は地図です。地図帳のように市内各地区を見ることができ、防災の観点から必要な情報などを表示しています。
巻末には広域表示のハザードマップも添えました。これもご家庭で実際に広げてご覧ください。この地図は雨で濡れても大丈夫。しかも簡単には破れない紙で作っています。雨降りの中でも使うことができます。

『防災力を高めよう』

市長 横尾 俊彦

5月には防災パトロール、6月には防災会議を行いました。河川にセンサー等を備えて水位観測して対策に活かすなどの態勢も整えています。春先に災害対策本部の訓練も行いました。
国も避難勧告等に関するガイドラインを改定。雨量や河川水位から5段階のレベル分けをし、レベル4は要避難です。レベル5は命に危険な可能性ありの警報です。詳しくは市報6月号(11ページ)をご覧ください。
さらに、万に備えた飲料水や食料の備蓄も重要です。全国の災害から、被災後3日間をいかにしのぐかが肝心で、その際に必要なものを自ら備えることも重要です。体質に合った食料、自分が必要とする医薬品や衛生用品など前もって備えれば安心です。自助もお願いします。
市としても防災体制強化に努めます。皆さんと一緒に防災力を高め進んでいきましょう。